

ホクギン県内景気動向調査

平成15年9月実施

要 旨

2003/7～9期の業況判断DIは、前期比5.0ポイント低下の△21.0%。DIはこのところ持ち直し傾向にあったが、今期はやや悪化した。2003/10～12期は2.4ポイント上昇予測となっており、業況判断は先行き小幅改善が予想されている。業種別では、卸・小売業がほぼ横這いだった他は製造業、サービス業、建設業でDIの低下が見られた。

業績面では、2003年度上期は、売上高DIや経常利益DIの低下などから、引き続き減収減益基調にあるものの、下期は改善傾向を示している。資金面では窮屈感が弱まっており、また在庫水準では過剰感が薄れてきている。

雇用面では、建設業を除き正社員の過剰感が緩んできている。

設備投資面では、2003年の設備投資実施（予定）割合は前年並み水準となる見込み。

〔年俸制の採用状況〕

年俸制を採用している企業の割合は13.6%と2002年9月調査と比較して特に増加傾向は見られなかった。採用している企業で対象者は現在「役員のみ」が最も多く、今後は「部長以上」が最も多く検討されている。また年俸制採用企業は、「総額人件費の管理がしやすい」との感想を持つ先が52.5%を占めた。

調査の概要

- 調査時点 平成 15 年 9 月 1 日～ 9 月 12 日
- 調査方法 郵送による記名アンケート方式
- アンケート調査依頼企業数 572 社
- 回答企業数 313 社（うち有効回答 313 社）
- 回答率 54.7%

内訳：業種別（構成比）		従業員数別（構成比）	
製造業	117社（37.4%）	50人以下	102社（32.6%）
卸・小売業	81社（25.9%）	51～100人	92社（29.4%）
サービス業	54社（17.3%）	101～300人	87社（27.8%）
建設業	50社（16.0%）	301人以上	22社（7.0%）
その他・不明	11社（3.5%）	不明	10社（3.2%）

ホクギンDIとは

- 景気や業況に関する判断を「良化」「変わりなし」「悪化」といった選択肢から選んでもらい、以下の式により数値を求めたもの。
ホクギンDI = (「良化」と回答した企業割合) - (「悪化」と回答した企業割合)
- DIとは Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、経営状態を判断する指標。
- 選択肢は、質問内容によって「増加」「横這い」「減少」や「余裕」「普通」「窮屈」などの場合もある。